
青年の主張

野脇幸菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青年の主張

【Zコード】

Z3095F

【作者名】

野脇幸菜

【あらすじ】

発展途上国に来た日本人を殺してしまった村の青年は…。

(前書き)

改行が何度もつまづいた箇所があるのでみません。

TVカメラを持った人までわざわざ日本から取材にやって来て、話を聞き回っていた時には腹が立つた。

やつをいいの英雄だと想つてやがるのか。

冗談じゃない。

どうせ何年かしたら帰国して、昔発展途上国で人助けをしてましたみたいに思い出話をするくらいだら。

英雄でもなんでもないんだ。

こいつは俺たちの知らない知識を知つていると崇められて優越感に浸つてただけさ。

こつに俺たちの何がわかるつていうんだ。

こいつがここにやって来てから、みんなこいつを信用して頼りにしていた。

まるで神のような扱いだった。

日本という国で学校教育を受けて、食べ物にも困らなかつただろうこいつに俺たちの何がわかる。

みんながこいつを信頼することでの村のマリコーネティーも崩れて

きていた。

村長の立場をみんなが軽視し、あいつに視線が集まっていた。

村長自身も自分の娘を日本人の嫁にしようと必死な様子だった。

どうせ日本に娘を連れ帰つてもらえたとしてもすぐ捨てられただけ
る。

こいつが来なくとも俺たちのペースで問題は解決していたはずだ。

俺たちには俺たちの時間の流れがあるんだ。

考えがあるんだ。

それをこいつが崩してしまったんだ。

しげみに殺した遺体を捨てても青年の苛立ちはおさまらず、遺体を見下ろし続けていた。手に握りしめた奴のポケットの中身を燃やそうと、マッチを出した。

少しでも発見を遅らせる方がいいだろう。

夜中に連れ出したせいか現金は持つておらず、紙が一枚入つていただけだった。

一枚目にマッチの火をかざすと手書きの村の地図だった。

どこに誰の家があるのか、その家に誰が住んでいるのか書かれていた。

燃やしてやつた。

もう必要ない」とこつこつは。

死んでるのだから。もう一枚の方にでもマッチをかざした。

日本語で書かれている文章のよつだつた。

しわくちゃの紙で汚れた指のあとがいくつも付いていた。

何度も読み返していたのだろう。

大切に毎日持ち歩いていたのだろう。

マッチの火が消えたのでもう一度つけた。

もう一度かざした。

汚れたあとに隠れるかのように滲んだ文字がいくつもあった。

涙のあとだった。紙がしわくちゃなのは涙が乾いたせいでもあつたのだ。

奴のすり減ったスニーカーの裏側を見つめながら青年はその一枚の紙を燃やせないでいた。

(後書き)

批評してもらいたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3095f/>

青年の主張

2010年10月10日02時35分発行